



←協会ロゴ兼エンブレム

2016年7月制定。協会員・加藤隆久氏(運営理事)の作。「ボール・ラケット・汗」がモチーフ。中央にボール、紡錘形はラケットと汗を表す。「ボールを追って流そう爽やかな汗」を呼びかける。「1973」は協会創立年。



**顔の時の**  
陸上日本学生選手権  
桐生9秒98!  
9月9日・福井男子  
100m決勝・桐生祥秀  
(東洋大4年)が日本選  
手初10秒の壁を破る。

# 黒岩・和崎組初V

## 大野木・服部組(辛勝)

### 秋季大会1部

秋季大会は10月8日(日)午前9時から市民公園で熱戦。男子1部は黒岩竜二・和崎省伍組が大野木宏洋・服部勇介組に7-5で競り勝ち初優勝。女子1部は「JUEGO」対決。浦野優子・森山由香組が土屋菜月・沖胡美紀組を6-4で下して初V。

# 女子は浦野・森山組

#### ＜秋季大会成績＞

- [男子1部](参加24組)  
優勝=黒岩竜二・和崎省伍 (aiのある場所)  
準優勝=大野木宏洋・服部勇介 (フリー)  
第3位=高木亘紀・加藤輝 (フリー)  
手島晋治・佐藤純也 (NAS)
- [2部](参加30組)  
優勝=浅井貞孝・相本博亮 (瀬戸信用金庫)  
準優勝=吉永尚志・日比野康 (BRIO)  
第3位=船間崇大・三品伸泰 (BEARS)  
稲垣将樹・梅村和久 (テニス協会)
- [壮年男子](参加8組)  
優勝=杉浦敏光・加藤孝平 (みろく)  
準優勝=岡本美昭・加藤勤 (Team Blue Mountains)  
第3位=長谷川了・栗田佳樹 (F22)  
谷口元之・柴田高良 (テニス協会)
- [女子1部](参加24組)  
優勝=浦野優子・森山由香 (JUEGO)  
準優勝=土屋菜月・沖胡美紀 (JUEGO)  
第3位=池本麻里絵・井戸田嘉奈子 (JUEGO)  
入江愛・安藤美奈 (O3)
- [2部](参加7組)  
優勝=木戸口江美・杉山瞳 (フリー)  
準優勝=上原美与子・尾崎千鶴 (祖東クラブ)  
第3位=加藤千里・安田美菜 (BEARS)

#### 市選手権決勝コンピ

総計100組募集。男子1部24組、2部30組、壮年8組、女子1部24組

組、2部7組の計93組が参加。男子1部決勝は黒岩・和崎組(今年市選手権1・2位ペア)と大野木・服部組がハイレベルな攻防。5-5の



会心の笑み。男子1部を制覇した黒岩・和崎組(前)、準優勝の大野木・服部組(後右)、3位の高木・加藤組(加藤不在)(後左)。下は3位の手島・佐藤組



同僚対決制し。女子1部初優勝の浦野・森山組(前右)、準優勝の土屋・沖胡組(前左)、3位の池本・井戸田組(後左)と入江・安藤組(後右)

#### 女子「JUEGO」1・2・3

### 土屋・沖胡が準V 「楽しさ中くらい」

女子1部は「JUEGO」(フエゴ・楽し)勢が1、2、3位。決勝は初出場の浦野・森山組が土屋・沖胡組に打ち負けず、6-4で押し切って初優勝。土屋痛恨のネットタッチ。第1シードの池本・井戸田組は4強入りしたが、土屋・沖胡組との同士討ちで涙。3決は入江・安藤組を6-3で下した。浦野・森山組以外にはチーム名通りになかった?

### 男子2部も激戦

近年レベルアップ著しい男子2部。強豪が次々に姿を消す中、決勝はIフオーメーションの浅井・相本組と吉永・日比野組。吉永組5-12。あと1ゲームとしたが、もたつく間に足が悲鳴。5ゲーム連続で失い、痛く逆転負け。両ペアは1部昇格。3決は船間・三品組が稲垣・梅村組に快勝した。(2面(続))

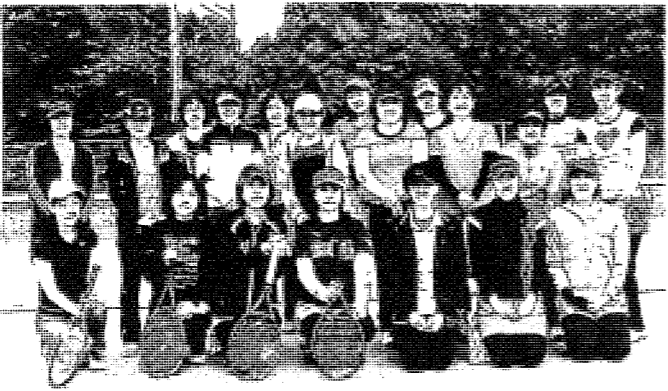
【1次リーグ Aブロック成績】

対戦ペア	藤本	大神	中藤	平森	高杉	勝敗順位
藤本・本田	●	●	●	●	●	0-4 ⑥
大越・神鳥	○	○	●	●	●	1-3 ④
中村・藤田	○	○	○	○	○	4-0 ①
平田・森田	○	○	●	●	●	2-2 ③
高橋・杉山	○	○	○	○	○	3-1 ②

【1次リーグ Bブロック成績】

対戦ペア	後木	植栗	鈴松	作神	高鈴	勝敗順位
後藤・木戸口	○	○	○	○	○	3-1 ②
植田・栗木	●	●	●	●	●	1-3 ④
鈴木悦・松永	○	○	○	○	○	1-3 ⑤
作石・神村	○	○	○	○	○	4-0 ①
高石・鈴木真	●	●	○	○	○	1-3 ③

改称「レディース チャレンジ大会」



改称した「レディース チャレンジ大会」で熱戦を展開した10ペア。賞状・表彰台のチャンス。自信をつけて秋季大会への弾みにも

10組熱戦 レディースチャレンジ大会は10月4日、ギナー大会を改称して10月4日

（水）午前9時から午後1時まで市民公園Aで開催。参加10組、A・Bの2ブロックに分けた1次リーグ（各4戦）後、上位各3ペアによる決勝（各1ゲーム）と4・5位のコンソレ。リーグは3ゲーム、トーナメントは4ゲーム先取。ともにノーアドとした。Bブロックは混戦。作石・神村が4勝0敗で1位通過。後藤・木戸口が3勝1敗、3ペアが1勝3敗で並んだ。

【決勝トーナメント】

- A1位 中村・藤田
- A3位 平田・森田
- B2位 後藤・木戸口
- A2位 高橋・杉山
- B3位 高石・鈴木
- B1位 作石・神村

【3決】高橋・杉山 4-3 中村・藤田

【コンソレ】

- A4位 大越・神鳥
- B5位 鈴木・松永
- A5位 藤本・本田
- B4位 植田・栗木

作石・神村組が全勝V

平田・森田リーグ3位から奮起の準優勝

が、得失ゲーム差で高石・鈴木組が3位。1位の作石・神村が決勝でも高橋・杉山組を下して決勝進出。Aブロックを2勝2敗の3位通過の平田・森田が1位通過の中村・藤田に雪辱して決勝。決勝は作石・神村が快勝。リーグから通算6戦全勝で優勝。3決は高橋・杉山が藤田・中村に競り勝って賞品を確保。

コンソレは大越・神鳥組V

決勝進出を逃したリーグ4・5位の4ペアによるコンソレは決勝でA

10月の練習会

11日(水) 19時~21時

14日(土) 17時~21時

21日(土) 17時~21時

今年の行事日程

★第7回 高校学年別大会

10月28日(土)、11月3日(祝)。市民公園A・B。午前7時~午後5時。瀬戸市近郊高校生。1、2年生別単複。参加費=1人800円。学校関係者に案内。予備日=11月4日(土)。

★壮年・レディース大会

11月26日(日)。市民公園A・B。午前9時~午後5時(コートは午前7時から確保)。市内在住・在勤者または協会員。男子45歳以上、女子40歳以上の男女ダブルス。各先着32組。参加費=1組1,200円(協会員は無料)。受付=10月18日~11月8日。予備日=12月17日(日)。10月15日付け広報掲載。

★協会創立記念&総会

12月3日(日)。市民公園Aで午前9時~午後5時。途中、正午から午後1時まで体育館会議室で総会。往復はがきで案内・必ず返信を。雨天時、総会のみ行ないます。予備日なし。<17年 全日程終了>

「北」で審判講習会

審判講習会第2回を秋季大会の翌日10月9日(月)祝日体育の日、北1日4個参加で午前9時から開催。参加11人から開会。個人も務める小川理事が最近の試合でのトラブルなどを紹介。ダブルスで4人ともカウントを覚えていないとか隣ボール侵入のレットはいつ掛ければ有効?など。参加者は耳を傾けた。終了後は自由練習。来季

守ろう「ウェア規定」

試合ではプレイヤーはテニスウェアを着用しなければならぬ。テニスウェアとは、男子は襟付き半袖シャツとショーツ。女子はワンピースまたはシャツとスカートまたはショーツ。Tシャツは...テニス用具メーカーのテニス専用TシャツはOK。いわゆる「遊び着」はNG。着替えを命じられることがある。全英では更に「白基調」が条件。草大会でも白基調の半袖シャツを用意しておくと、無難なお当協会は「ロコ規定」は適用していない。

レディースチャレンジ成績

【決勝トーナメント】リーグ1~3位 優勝=作石 節・神村みはる 準優勝=平田慶子・森田理恵 第3位=高橋利恵・杉山 瞳

中村麻由・藤田由佳

準々決勝敗退=後藤七海・木戸口江美、高石美咲・鈴木真理乃(K)(所属「K」以外はフリー)

【コンソレ】リーグ4位・5位 ①大越三代子・神鳥あかね ②植田千鶴子・栗木恭子 ③鈴木悦子・松永亜紀、藤本智子・本田京子(K)(所属「K」以外はフリー)

優勝した作石⑤・神村⑥組

「ロービング・アンパイア」って何?

巡回審判。「R・U」と略す。アンパイアがつかない試合で、レフェリーらと連携し、円滑な進行のため、1人3~4個面のコートを巡回、問題に対処する。試合前のコートチェックやプレイヤーの確認のほか、必要であれば①ルール問題、事実問題について判定する②プレイヤーにラインコールの方法を指導する③オーバーコールできる④コートではBMI(ボールマークインベジション・確認)ができる⑤コード違反者にペナルティを科すなどの権限を持つ。またプレイヤーからのリクエスト(飲み物、ラケットの補充など)への対応、解決できないトラブルのレフェリーへの報告なども任務。

小川理事の説明を聞く審判講習参加者

も2回予定。多数参加を。

<女子1部 戦績>

池本組V 2ならず

前年女王の池本・井戸田組は準決勝で同僚対決に敗れて3位。

浦野・森山 60

鈴木とよ子・松井みどり・浦野優子・森山由香・藤垣朱美・浜本賀洋子・竹山桂子・神村みはる・井手清子・増岡依子・高桃子・西田里奈・蜂谷有加里・橋本明子・津井麻志・大島志穂・伊藤奈穂・村瀬真理子・水谷津津留・酒井代子・安藤美奈

進優勝II土屋・沖胡

【3決】池本・井戸田 6-3 入江・安藤

<秋季大会 男子1部 戦績>

高木4冠お預け

「瀬戸4冠」王手の高木は加藤と組んだが準決勝敗退。達成お預け。

黒岩・和崎 62

磯村和信・藤田隆博・川西健太・川西敦也・原山祐亮・東山下亮太・森川繁久・加藤厚志・黒岩竜二・和崎省伍・鈴木克史・小澤大成・高島裕治・高島善也・佐藤純也・清家善之・大石悟平・岩出洋一・富田一行

準優勝II大野木・服部

【3決】高木・加藤 棄権 手島・佐藤

女子2部は木戸口・杉山組が優勝

女子2部優勝の木戸口・杉山組(前左)、準優勝の上原・尾崎組(後左)、3位の加藤・安田組(後右)

女子2部は7組。木戸口・杉山組と上原・尾崎組の決勝は、木戸口のつかぎと杉山の決りが息をつたり。6-4で振り切つてうれしい優勝。両ペアを敵しい1部が待っている。3決は加藤・安田組が快勝。

木戸口・杉山

【3決】加藤・安田 6-2 中村・前野

浅井・相本 卒業V

準優勝 吉永・日比野組も1部へ

男子2部優勝の浅井・相本組(前左)、準優勝の吉永・日比野組(前右)、3位の船間・三品組(後右)と稲垣・梅村組(後左)

<男子2部 戦績>

浅井・相本 7-5

加藤 渡・津田信孝・柳沢洋介・服部徳春・宇野元英・斎藤建太・浅田将義・笠井隆行・田辺晋平・永木幸平・高木正則・服部嘉雅・浅井貞孝・相本博亮・磯村信芳・仲賢司・松岡良一・加藤文敏・磯部孝志・岸本尚起・平田良一・永田紘規・服部達哉・船山文彦・菊間崇大・三品伸泰・山内精一郎・伊左治孝紀・伊田晃太郎・福島昌浩

井出直紀・菊池唯史・尾崎直弘・高島悠里・吉川耕平・河村康之・酒井将矢・長田昌弘・石川均・充・金藤正美・前野敏明・飯田顕生・青井進志・吉永尚志・日比野康・井上秀人・山田賢蔵・伊藤良樹・村田慎樹・金川誠二・中西輝一・中賀昭一・丹羽滋巳・稲垣将樹・梅村和久・若井裕明・橋本太郎・小川栄二

準優勝II吉永・日比野

【3決】船間・三品 6-2 稲垣・梅村

<男子壮年 戦績>

杉浦・加藤 6-3

谷口元之・柴田高良・加藤昭生・都築裕伸・松尾直人・岡隆司・杉浦敏光・加藤孝平

岡本美昭・加藤勤・大廣邦久・近藤峰夫・加藤義孝・渋谷尚紀・長谷川了・栗木佳樹

【3決】長谷川・栗田 6-2 谷口・柴田

男子2部 近年の覇者

【男子】

- 07 竹元康明・鈴木猛史
- 08 八百山浩幸・富士和仁
- 09 八百山浩幸・富士和仁
- 10 富田一行・福山剛章
- 11 八百山浩幸・富士和仁
- 12 喜多真一郎・野中 裕
- 13 森田将文・村松祐次
- 14 八百山浩幸・富士和仁
- 15 小島将斗・伊藤貴彦
- 16 斎藤智哉・黒岩竜二
- 17 黒岩竜二・和崎省伍

【女子】

- 高木淳子・松原由布子
- 高木淳子・松原由布子
- 松山 恵・柴山千沙子
- 山田久美子・柴山千沙子
- 小麦崎さくら・川口 綾
- 吉村鮎美・作石 節
- 小境陽子・梅村奈美子
- 八百山浩幸・古橋葉月
- 柴山千沙子・中野久美子
- 井戸田嘉奈子・池本麻里絵
- 浦野優子・森山由香



デ杯「16強」残留を決め、笑顔の日本チーム。(左から)添田、ベン、岩淵監督、内山、杉田

# 100歳ダブルス

# 殷・山口組 2年ぶり2度目優勝

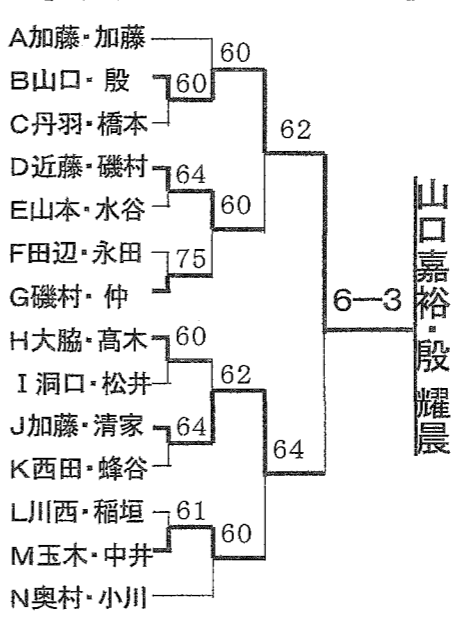
【1次リーグ戦績】丸囲みは順位

- [Aブロック]
  - 平野欽也・大越三代子(混) 1勝1敗②
  - 前野敏明・前野利香(混) 0勝2敗③
  - 加藤 渡・加藤千里(混) 2勝0敗①
- [Bブロック]
  - 横田 誓子・宇水良江(女) 0勝2敗③
  - 酒井真樹・藤田隆博(男) 1勝1敗②
  - 山口嘉裕・殷 耀晨(男) 2勝0敗①
- [Cブロック]
  - 浜本賀洋子・加藤昭生(混) 0勝2敗③
  - 丹羽滋巳・橋本明子(混) 2勝0敗①
  - 金川誠二・中西 輝(男) 1勝1敗②
- [Dブロック]
  - 杉浦敏光・加藤孝平(男) 1勝1敗②
  - 近藤峰夫・磯村和信(男) 2勝0敗①
  - 岡野敏春・鈴木さよ子(混) 0勝2敗③
- [Eブロック]
  - 山本政巳・水谷千津留(混) 2勝0敗①
  - 遠藤理恵・内藤京子(女) 0勝2敗③
  - 堀田真矢・柴田高良(男) 1勝1敗②
- [Fブロック]
  - 岩井裕明・稲垣将樹(男) 1勝1敗②
  - 田辺 晋・永田幸平(男) 2勝0敗①
  - 石川 均・中川恵美(混) 0勝2敗③
- [Gブロック]
  - 嶋 利男・吉川智春(混) 0勝2敗③
  - 磯村信芳・仲 賢司(男) 2勝0敗①
  - 田中秀樹・山崎正史(男) 1勝1敗②
- [Hブロック]
  - 大石 悟・志水綾子(混) 1勝1敗②
  - 柴山千沙子・中野久美子(女) 1勝1敗③
  - 大脇敬治・高木 順(男) 1勝1敗①
- [Iブロック]
  - 洞口和史・松井みどり(混) 2勝0敗①
  - 飯田顕生・中村麻由(混) 1勝1敗②
  - 橋本太郎・仁科由紀子(混) 0勝2敗③
- [Jブロック]
  - 高塚敏夫・中垣孝行(男) 1勝1敗②
  - 加藤昌也・清家善之(男) 2勝0敗①
  - 五島美佐子・大脇千登世(女) 0勝2敗③
- [Kブロック]
  - 西田里奈・峰谷有加里(女) 2勝0敗①
  - 高木正則・服部嘉雅(男) 0勝2敗③
  - 松下満代・杉浦智子(女) 1勝1敗②
- [Lブロック]
  - 川西秀夫・稲垣陽子(混) 2勝0敗①
  - 浅田将義・北沢邦男(男) 1勝1敗②
  - 山口正明・加藤治子(混) 0勝2敗③
- [Mブロック]
  - 岡 隆司・及川真愛(混) 1勝1敗②
  - 池田富子・田端典子(女) 0勝2敗③
  - 玉木長三郎・中井喜一(男) 2勝0敗①
- [Nブロック]
  - 奥村慎二・小川由香子(混) 2勝0敗①
  - 梅村和久・伊藤奈穂(混) 0勝2敗③
  - 松岡晃司・安田美奈(混) 1勝1敗②



1位グループトーナメント優勝の山口・殷組(右前)、準優勝の加藤・清家(後方右から3人目・4人目)組、3位の玉木(前中央)・中井(右から3人目)組と近藤・磯村組(左端)

【1位グループ・トーナメント】



## 山口嘉裕・殷耀晨

## 加藤昌・清家組を下す

市民公園10面。48組が運営。ツキブロック、激戦ブロック。上限度。出場42組を抽選で1。やや激しそうな女子ペアも生まれ。次リーグ3組ずつA・S・Nの14グループ。トランプめ！。順位別。対戦表は事前決定に変更。

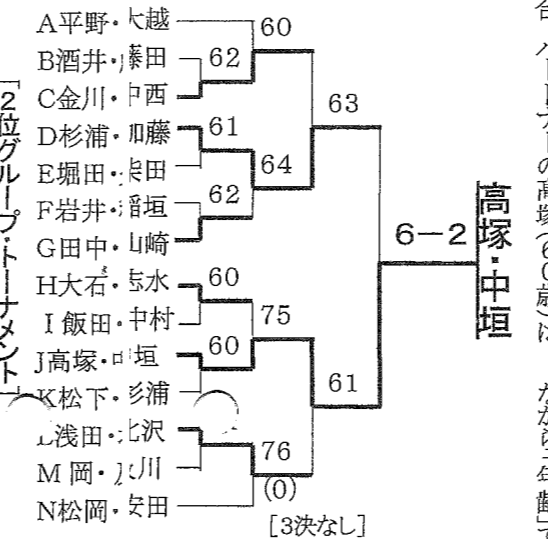
第12回「100歳ダブルス」は台風で1週延び。9月23日(土)午前9時から市民公園で開催。満杯の48組。延期で6組欠場。42組を3×14ブロックに分けて1次リーグ。各ペア2戦したのち、各順位別トーナメントで優勝を争った。リーグで1位の14組による1位グループトーナメント(GT)は、一昨年V・昨年準Vの山口嘉裕・殷耀晨(いんようしん)の男子ペアが2度目の優勝。2位GTは高塚敏夫・中垣孝行組、3位GTは柴山千沙子・中野久美子組が制した。

- <100歳複 成績>
- 【1位グループトーナメント】  
優勝=山口嘉裕・殷 耀晨(フリー)  
準優勝=加藤昌也・清家善之(NAS)  
第3位=玉木長一郎・中井喜一(SLTC)  
近藤峰夫・磯村和信(テニス協会)
- 【2位グループT】  
優勝=高塚敏夫・中垣孝行(ロング×3)  
準優勝=杉浦敏光・加藤孝平(みろく)  
第3位=金川誠二・中西 輝(みろく)  
浅田将義・北沢邦男(ねこだんご)
- 【3位グループT】  
優勝=柴山千沙子・中野久美子(丸新)  
準優勝=浜本賀洋子・加藤昭生(みろく)  
第3位=岡野敏春・鈴木さよ子(チーム谷助)  
梅村和久・伊藤奈穂(丸新)

【3決】玉木・中井 6-2 近藤・磯村



2位グループT優勝の高塚敏夫・中垣孝行組



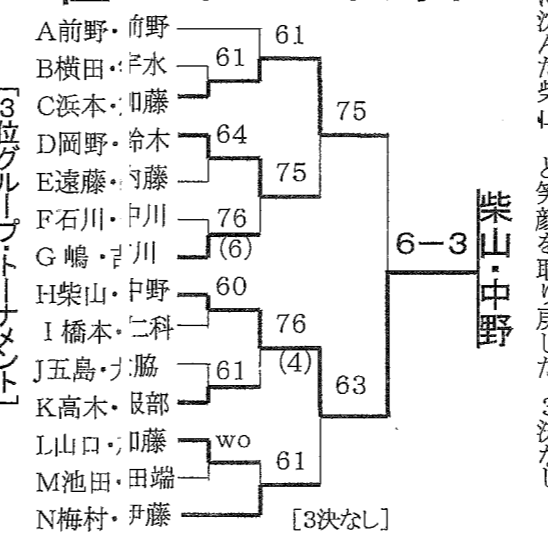
## 高塚・中垣

2位GTはリーグJブロックで加藤・清家組に敗れた高塚・中垣組が決勝でD2位の杉浦・加藤組を6-2で押し切つて優勝。中垣は「何としても1位Tにもぐり込みたい。たかっちゃんが残念。2位T優勝で少し気が晴れました。」と表彰式後、中垣は他選手と組んで準優勝の加藤・清家組と練習試合。パートナーの高塚(60歳)は

## 2位GTは高塚・中垣組V

混復6、男復7、K、女復の西田・蜂谷組(春季2部覇者)は決勝でも健闘した。決勝は昨年準VでB1位の山口・殷組がJ1位の加藤・清家組を下して優勝。やはり「山口組は怖い。分裂させないで(冗談)。3決は玉木・中井組が近藤・磯村組に快勝。中井は今大会は1.常滑の協会員。30歳台の元インカレ？」

## 3位GT 柴山・中野組



## 柴山・中野

中野組は気を取り直してこうなつたら絶対優勝する！と言いつつ絶対優勝する！と言いつつBコート。苦戦ながらも決勝進出。C3位の浜本と(72歳)加藤の混合ペアを6-3で下して有言実行のV。疲れた表情で表彰式に臨んだが、1位Tと同じ優勝賞品と知らされて「わっ、タオルも！これ欲しかったのよ」と、やっとな笑顔を取り戻した。3決なし。



3位グループTでVの柴山千沙子・中野久美子組

## 日本WG残留

デ杯入れ替え戦 ブラジルを3-1

男子の国別対抗戦「デビスカップ」(デ杯)ワールドグループWG116強残留をかけた日本はブラジルとの入れ替え戦(単4)を1-9月15日18日、大阪うつぼに3勝1敗で勝ち、残留を決めた。単の杉田が2勝、錦を欠く中、新田の役割を果たした。4月に就任した岩淵監督が初采配。複要員にマクランク

## 杉田、誕生祝いの2勝

ラン・ベンを初めて選んだ。初日単2試合で杉田が244位。クレールに6-2、7-5、7-6のストレイト勝ち。添田も116位。モンテイトに3-1、6-6、1-4、6-3、6-7、6-1、4のフルセットで勝ち、早くも主手。2日目は台風で2日順延。最終日(18日)に複と単2試合の予定。内山・ベン組が強豪のメロ(複3位)・ソアレス(同12位)組に6-7、4-6、2-16のストレイト負け。単第1試合でこの日29歳誕生日の杉田が23歳・モンテイト

## ライブ判定初採用

11月・U21最終戦で11月、イタリア・ミラノで初めて開かれる「21歳以下ツアー」が「ライブ判定」が初めて導入される。線審の誤審を防止、すべて機械で判定する。線審は置かなくなる。現行の判定機を応用した「ボックアウト」を設置し、ショットが外れた瞬間に「アウト」とコールされる。ライブ判定は最終となり、チャレンジは適用されない。場内に映像が流される。

## ライブ判定初採用

11月、イタリア・ミラノで初めて開かれる「21歳以下ツアー」が「ライブ判定」が初めて導入される。線審の誤審を防止、すべて機械で判定する。線審は置かなくなる。現行の判定機を応用した「ボックアウト」を設置し、ショットが外れた瞬間に「アウト」とコールされる。ライブ判定は最終となり、チャレンジは適用されない。場内に映像が流される。

## <100歳複 歴代優勝ペア>

- 06年 高木淳子・横山真和(混)
- 07年 高木 順・長沢裕二(男)
- 08年 高木 順・水野 斉(男)
- 09年 長江茂幸・安藤福泰(男)
- 10年 横山真和・原田吉隆(男)
- 11年 近藤峰夫・金川誠二(男)
- 12年 横山高雄・富士和仁(男)
- 13年 加藤 勤・福島浩平(男)
- 14年 高木 順・近藤峰夫(男)
- 15年 山口嘉裕・殷 耀晨(男)
- 16年 久田時彦・久田裕美(混)
- 17年 山口嘉裕・殷 耀晨(男)

## 衣替えし人気大会に

「100歳ダブルス」はクラウン大会に代えて2006年に創設。当年未現在の年齢で男子ペアは合計100歳以上、女子ペアは合計80歳以上、混合ペア計90歳以上が条件の混合戦。1次リーグ後に順位別トーナメント。複戦できるのが好評。成績が並んだ場合は「高齢勝ち」の「100歳」ならはのルールも。今回から1位3位までのほかに2位グループ3位グループの覇者にも賞品授与。年齢インディの女子ペアペアにはやや辛い大会だが、初代王者と昨年覇者は混合ペア。



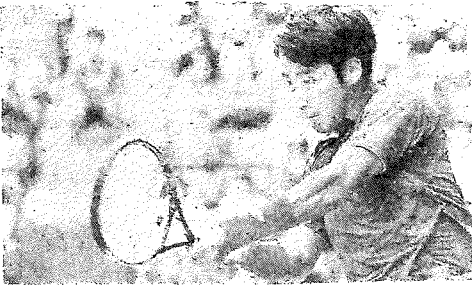
# 内山・勉組が優勝

## ジャパン・オープン 単は第4シード・ゴフィン



強豪を連破して優勝。トロフィーを掲げる内山⑤・マクラクラン⑥組

◆マクラクラン・勉=母国ニュージーランド。日本国籍を取得。185センチ。安定した好サーブが持ち味。ダブルスのスペシャリスト。9月のデ杯で初めて日本代表に。25歳同士・内山とのコンビには「試合毎に良くなり、強くなっている」と頼もしい。



◆杉田の話『(自国開催・エースの重圧?) エネルギー消耗が他の大会と違った。疲れを打ち破れなかったし、相手の粘りもすごかった』

ジャパン・オープン(10月8日まで・有明V500)複で内山靖崇・マクラクラン勉組が優勝。日本ペアのVは岩淵聡・鈴木貴男組以来12年ぶり。単は前年準優勝の第4シード・ゴフィン(ベルギー)が31位・マナリノ(仏)を下して初優勝。杉田祐一は、ペール・ラオニッチの連続棄権で8強入り。準々決勝でマナリノに敗れた。運よすぎた「連続棄権」

波乱含み。第3シード・ティエムが初戦敗退。第3シード・ラオニッチが2回戦棄権。全米準Vで第5シード・ランダーソンも2回戦敗退。40位・杉田は初戦、錦織の天敵37位のペール(仏)に6-4で先取後、相手棄権。2回戦もラオニッチ

## 杉田、マナリノに敗れ4強ならず

複は杉田・松井俊英組が初戦完敗。ペアを組んでまた3度目の内山・マクラクラン組が初戦突破の後、全米覇者で第1シードのロイヤール・テカウ組を7-1、7-6で破る金星。準決勝も強豪のゴンサレス・シラルタ組を7-5、6-4で撃破。決勝は昨年全豪、全米王者で第2シードのジェイミー・マリヤンデイスの兄・ソアレズ組を6-4、7-6で倒した。賞金1146万円を獲得。来年会場は調布「武蔵野の森」来年度の、否は調布市「武蔵野の森スポーツセンター」に変更。有明が五輪準備で11月末から改修のため。

＜単々決勝以降＞

①	チリッチ	20						
52	ハリソン		21					
40	杉田 祐一	20	67	64	60			
31	マナリノ		62	64				
④	ゴフィン	20						
	ガスケ		20					
	ジョンソン				20			
	ジョーン					76	76	
⑧	シュオーツマン							

ゴフィン 63 75

チが第1ゲーム後、足故障で棄権。ラッキー8強の杉田は準々決勝で左利きマナリノ(29歳)に2-1、6-4で敗れ4強はならず。

内山初白星 高橋は惜敗  
内山北日本物産(はたスゴル)クロアチアに6-3、3-6、6-1でツアール初白星。2回戦、チリッチには3-6、4-6。ダニエル・トナブリは初戦で盧(台湾)に1-6、3-6。添田豪(33歳・GODAI)もマナリノに5-7、6-7。予選上がり262位の高橋悠介(19歳・三菱電機)は52位のハリソン(米)に4-6、6-4、4-6で惜敗。

決勝はマナリノに過去2勝の11位・ゴフィンの6-3、7-5。中国での大会に続き2週連続優勝でツアー4勝目。5000大会Vは初。

新ペア、金星の連続  
複は杉田・松井俊英組が初戦完敗。ペアを組んでまた3度目の内山・マクラクラン組が初戦突破の後、全米覇者で第1シードのロイヤール・テカウ組を7-1、7-6で破る金星。準決勝も強豪のゴンサレス・シラルタ組を7-5、6-4で撃破。決勝は昨年全豪、全米王者で第2シードのジェイミー・マリヤンデイスの兄・ソアレズ組を6-4、7-6で倒した。賞金1146万円を獲得。来年会場は調布「武蔵野の森」来年度の、否は調布市「武蔵野の森スポーツセンター」に変更。有明が五輪準備で11月末から改修のため。

「えひめ国体愛知県選手団」  
成年監督 大見映理(金城学院中)▽男子 安田有賢(東海学園大)・千頭昇平(早稲田大)▽女子 田中文彩(亜細亜大)・宮田みほ(明治大)▽少年監督 若林勇希(名経大市部高)▽男子 片山幸輝(名経大市部高)・池田朋弥(誉高)▽女子 永田杏里(南山高女子部)・阿部宏美(愛知啓成高)

## 国体 永田・阿部の少年女子V

単2後に復の2勝制。8ゲーム先取。少年女子で期待の2人が決勝で東京を2-1で下して26年ぶり4度目の優勝。初戦から福岡、福井、大阪、京都を連破。決勝に進んでいた。永田は全勝。成年男子は1回戦で福井に1

## 東コート3月で閉鎖 学校建設

東公園コート(オム4面)が来年3月で閉鎖される。現・祖東中学の場所に小中一貫校が新設されるためテニスコート、野球場、多目的広場が用地となる。東コートは2004年春、ハードコートをおもひかへ、10年以上を経て傷みがひどくなり、パッチと連係して市と協議している。

## 瀬戸焼「大志」を抱け



プロ棋士・藤井四段直筆の「大志」の文字をあしらった瀬戸焼をデザインしたのは市内杉塚町の製陶会社「双寿園」3代目・石川圭一さん(38歳)写真。藤井君が連勝記録更新を間近にした時期、彼の育った陶都瀬戸にはこんなものがある」と伝えたいと、将棋連盟に商品化を直訴した。「自分が面白いと思ったことをやり続けて、もう一度瀬戸の名を広めたい」と、石川さんは意欲的な大志を語る。

12で敗退。千頭は単で敗れた。成年女子は奈良に競り勝ったが2回戦で神奈川に1-2で敗退。少年男子は滋賀に2-1、富山に2-0で勝ち、3回戦に進んだが、埼玉に0-2で敗れた。

Q1: 瀬戸4冠達成者は過去何人?  
Q2: 秋季大会募集100組に対し、参加何組?  
Q3: 国体少年女子優勝2人の高校生は誰?

◆錦織復帰2月か 手首故障・錦織の復帰戦は2月中旬の新設「ニョーク・OP」(主催者発表。旧称メンフィス、全米室内。うまくいけば初戦か全豪出場も)と、コチのマイケル・チャン。◆セナが女兒出産 4大会単23勝のセナウイリアムス(米・9月26日で36歳)が9月1日、フロリダの病院で女兒を出産した。来季復帰の意向。

○政界激動。総選挙22日投票。「護憲派壊滅の危機。球界は「清宮詣で」。喜悲ノール賞。体操は内村に代わり白井が活躍。水上競艇の季節も到来。○秋季大会、黒岩組も強かった。決勝4人の平均年齢7.5。女子は「JUGO」が席捲。100歳複、山口・殷組に当たった。4-16にはできたと悔やまれる。○レディーズチャレンジャー10組で好リスター。「平日午前」の難条件の大会。今後も振興策を検討、出場数を増やしたい。○「シヤン・POP」内山勉組が快挙。単の内山は精神的重圧に押しつぶされたか8強止まり。伊達引退。無名の頃は海外試合で苗字を「デイト」と読まれた。親しまれた。まずは、お疲れさま。(会報係 近藤)

東大生40人が選ぶ「日本の天才10人」のトップは藤井四段だけ。(TV余談)

啓成・野々山が米留学  
愛知啓成(高校総体女子団体8強)の主将、野々山風花(3年・17歳)が来年9月から米へテニス留学する。「海外に挑戦してみたい」と外国の憧れで決めました。得意のネットプレーと粘りでプロへのチャンスにも挑みたい。将来は英語を生かしてテニスに携われる力を付けたいと目を輝かせた。

STKニュース  
瀬戸市テニス協会業務部発行の協会報。原則隔月。昭和50年(1975年)創刊。98年から定期刊行。第10号まで梶田俊幸・元理事が制作。第11号から元理事・近藤峰夫が独自編集。会員約240人に送付。

次号は12月総会後